

まつぼっくり



学校教育目標「主体的に学び合い、達成の喜びを自信に変え、ふるさとを誇りに思う児童の育成」

知ること・練習すること・身に付けること

すべての人に当てはまることではないと思いますが、多くの人には当てはまることだと思います。「知って、練習を継続したら身に付く」私はそう思っています。

先日、4年生の教室で書写（毛筆）、いわゆる習字（書道）の授業が行われていました。担任の植田教諭の板書や書道の字はとてもきれいで美しく読みやすいです。私はというと下手です。その理由は、知らない・練習していない・身に付いていないからです。

私は大学生になってから嫌いだった水泳が好きになりました。なぜかというところ2km程の遠泳ができるようになったからです。小学校・中学校・高校と体育での水泳の授業を12年間受けてきました。しかし、授業は「泳げ」だけでした。クロールや平泳ぎの技術的な指導は、皆無と言っていいほどでした。ですからスイミングスクールに通っている同級生は上手で、それ以外は下手でした。高校までは何の違和感もなく好きになれない、ただ泳がされる水泳の授業を受け続けていました。しかし、大学の教育学部での水泳の授業は違いました。クロールは手で、平泳ぎは



書写の授業



すばらしい作品を見せられました

た。また、それを身に付けるために最初は陸上での練習、その動きができるようになってから水中で腕だけ、次に足だけ、そして身体全体と、段階をおって正しい泳ぎ方を身に付ける練習を繰り返しました。すると、楽に速く長く泳げるようになったのです。まさしく目から鱗でした。

書道もそうです。毛筆は硬筆である鉛筆とはまったく違います。筆の持ち方、筆の運び方、毛筆は基本筆を立てたり、払いでは筆を回したりします。これはその技術を知って・練習して・身に付けられないとできません。サッカーのリフティングだってそうです。正しく技術を知って・練習を継続して・身に付けるのです。それができればほとんどの子ができるようになります。だから、教える側の教育公務員は常に研究と修養に励まなければなりません。この様なことを意識して過ごすと、1日1日の小さな努力が大きな成長となります。私ももう59となりましたが、成長し続けなければと思っています。子ども達に「成長」しようと言っているのですから、自ら率先垂範です。



ぞうきんしぼりも正しく



発表や聞くことも正しく